

二尊石仏 1基

加東市指定文化財 平成25年3月31日指定
所有者 上三草財産区

上三草の旧丹波街道沿いに建立されている二尊を刻んだ竜山石の板碑で、高さ104cm、幅55cm、厚さ14cm。

向かって右側に阿弥陀如来坐像、左側に地藏菩薩立像が刻まれています。像を刻むために背面を削り、蓮華座は浮彫りされていますので、本来は、この板碑はより厚みがあったことが分かります。

加東市域で二尊を刻む石仏は数が少なく、本例は高砂市付近で製作され、持ち込まれたことが石材からわかります。

銘文は刻まれていないものの、蓮華座などの作例から磨崖仏と同様、南北朝期のものと推定されます。(資料：加東市教育委員会)



地藏磨崖仏 1基

加東市指定文化財 平成25年3月31日指定
所有者 上三草財産区

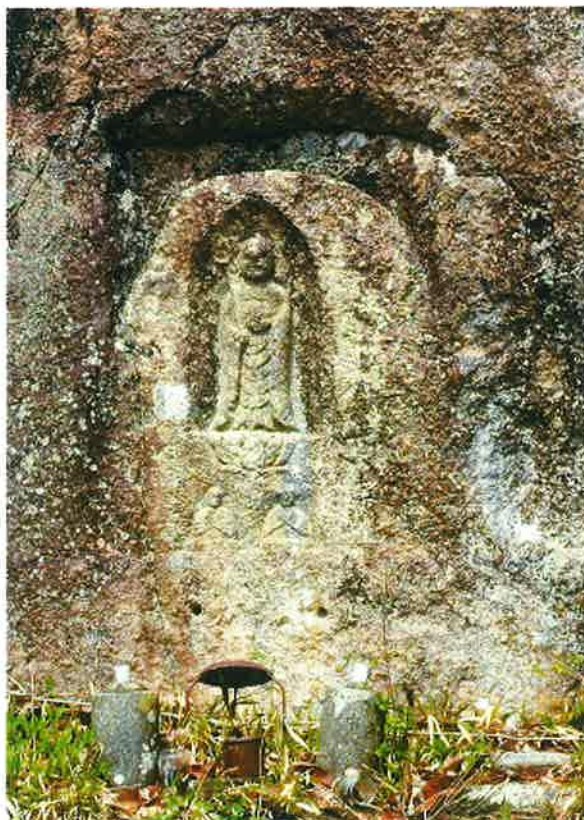
露頭する岩脈に地藏菩薩立像が半肉彫りされています。

蓮華座上に立ち、舟形光背の内に浅く彫り込まれた尊顔は、地藏菩薩立像としては厳しい目や口元をしています。右手で握る錫杖は斜めに刻まれています。

光背の左右にそれぞれ次のような彫書が認められます。

永和元年(1375)の紀年銘から南北朝期の作例であることが分かり、蓮華座などに当時の作風をよく留めています。石造物の指標となる資料として貴重な存在です。

(資料：加東市教育委員会)



東播用水加茂線サイフォン

二尊石仏と地蔵磨崖仏の間に設置されている送水パイプ。昭和 33 年に完成し、待望の開拓地への送水ができるようになった。

昭和池から上三草～牧野～吉馬方面、下三草～木梨方面に送水されている。



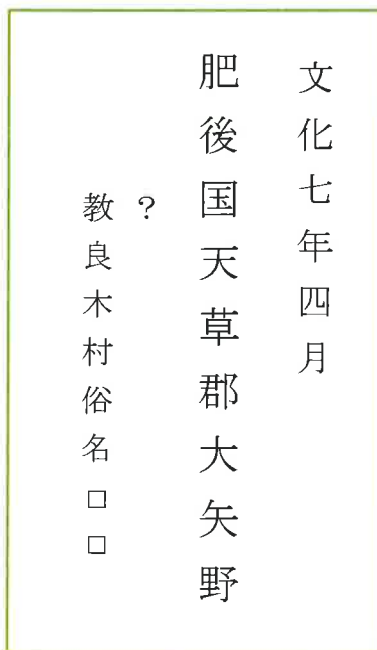
西国巡礼の行き倒れ墓

かつての丹波道沿いに祀られている。
石材は、地元産出の火山礫凝灰岩
記銘は表のみ、他の三面は未加工

近在に西国三十三番札所 御嶽山清水寺
があり、巡礼の行き倒れ墓か。
丹波道は、山陽道の裏道として、姫路—
京都への最短ルートとして、利用されて
いる。 (資料：加東市教育委員会)



向かって左の石塔



向かって右の石塔

